

経済学部キャリアガイダンス実施教員に関するアンケート結果のとりまとめ

経済学部キャリア委員 深山 祐

経済学部の教員アンケートの実施時期は、経済学部の「入門演習」において、4月から順次始められたキャリア支援課職員による「キャリア・ガイダンス」を実施していただいたので、「教員用キャリア・ガイダンス・アンケート」の作成が間に合わず、9名の経済学部教員には、「学生用キャリア・ガイダンス・アンケート」を用いてガイダンスについて自由な感想を書いていただいた。以下は「教員用キャリア・ガイダンス・アンケート」に答えていただいた5名の経済学部教員に基づく調査結果であったことを、最初に断っておきます。

1. キャリアデザインガイド1(CDG1)の内容と感想について

- (1) CDG1の内容と感想に関して、次の諸点において高い評価を得た。
 - ① 大変きれいな冊子、とても見やすい。
 - ② 内容、体裁とも良くできている。
- (2) CDG1の内容と感想に関して、次の諸点における今後の課題を指摘された。
 - ① もう少し厳しい現実をデータや新聞雑誌記事などで提示した方が、もっと学生が真剣に聴くようになる。
 - ② 普通の人が、普通に「会社」という組織で働くことが実感できる情報がほしい。
(市場や工場労働者は分かりやすいが、特殊な気がする)

2. キャリアデザインガイド1の活用状況について

「教員用アンケート」に答えた5名の教員のうち1名は「折に触れて、学生の将来について考えることを指導する際に、『CDG1』を活用させていただいている」との回答も寄せられているが、4名は、特に活用していないと答えている。それは多岐にわたる目的をもった「入門演習」という科目の性格のためでもあるように思われる。経済学部においては、上述のように、入学後(4～6月)行われた数クラス合同の「入門演習」において、キャリア支援課職員が、「CDG1」を用いて、懇切丁寧に、その活用方法を含めて、キャリア・ガイダンスを実施されるので、「入門演習」担当教員のほとんどは、その後の授業にて、CDG1を活用する必要を覚えないのかも知れない。

3. 本学のキャリア教育に関する理解度について

上記5名の「教員用アンケート」の回答教員は全員、概ね理解していると回答した

4. 本学のキャリア教育に関する今後の具体的課題について

- (1) キャリア教育の基本的課題
 - ① 入学間もない時期に、就職に関心のある学生が少なくはない。
 - ② しかし、キャリアセンター主催の、学生が自主的に参加するガイダンス等への出席率が低いことに如実に表れているように、将来の人生の進路選択についての意識が低い。
 - ③ どのようにすれば、学生の意識が1年次から高められるのか、具体的対応が早急に求められる。
- (2) キャリア教育の具体的課題
 - ① 早急に求められることは、4年一貫教育における「キャリア教育」とキャリア・センターの果たす役割の位置づけと関連。
 - ② 人生の進路選択へのモチベーションを高学年まで維持してゆく工夫として、グループ学習が重要ではないか。
 - ③ キャリア教育の第一歩として「入門演習」をどう活用させたらよいか、「入門演習」とどうバランスをとるか。
 - ④ 最近の就職難で苦労した卒業生の話の積極的活用。
 - ⑤ 若い職員の体験談なども入れる

5. 「教職員一体」でキャリア教育に取り組むに際し、「教員」と「職員」の役割分担に関するアイデアや具体的方法について

- (1) 教員と職員との密接連携、ネットワークがとれる工夫。
- (2) 教員は私を含めてあまりに就活について知らない。ぜひ、イロハから学習できる HP を教員および1, 2年生向けに立ち上げてほしい。

6. キャリガイダンスに参加しての印象や感想について

- (1) 例えば、キャリア・ガイダンスの翌週に発表させると、ガイダンスをメモを取りながら真剣に聴くと思うし、「入門演習」にも良い影響を与える相乗効果があると思う。
- (2) できれば、2クラス合同にして、グループ・ディスカッションの実施も良いのでは。
- (3) 少人数で継続的にガイダンスを受けさせたい。
- (4) 学生の集中力をどうしたら維持できるかが課題。

以上